

実施時期	: 平成10年度 第二学期
学年	: 2学年 3学級 1クラス33～34名
活動形態	: 1分間ト - ク (一部2分間ト - ク)
素材の出典	: 特に無いが, 過去の実践例を参考程度
スクリプト	: 出だしの英文のみ指定 資料の例 Excuse me, ( ) chan. What do you want to be in your future?.
タイトル	: One Minute Talk (将来なりたい職業に関して友達と話そう)
条件	: * 話しの出だしの英文は教師が指定 * なるべく一つの話題でつなげる * 1分間以上 (一部2分間以上) 会話をもたせる。

## Production Data

### 1, 指導計画

#### (1) ここまでの指導過程

初期過程においては, モデル文の口 - ルプレイによるMechanical.Drill  
その後, プラスワンダイアログ的なものを行なう過程を経てCommunicativeな  
今回のような練習に入っていく。今後1分間ト - クから2分間ト - ク,そして  
最終的には3分間ト - クを目指している。

#### (2) 実施回数

今年度2学期からOne.Lessonにつき2回程度, よって2学期には10回程度  
年間を通して20-24回程度。各レッスンの深化, 発展的なコミュニケーション活  
動として実施している。

#### (3) 関連する活動

- \* 「困った時の表現集」暗記練習 - 2人での会話中communication breakdownを起した際, この表現を使用し切り抜けられるようにするための useful expressionsを暗記させる活動。
- \* Q - A パターン暗記練習 - 2人の会話を成立させる為の基本表現集を暗記させる活動。主に入門期から第二学年前期に終了へ
- \* Pair Story-Telling - 教科書内容に関するペアでのstory-reproducing活動。Listenerの方も聞き返しの質問やあいづち, うなづきの表現を適宜行なう。時間も1分間とし, 1分間ト - クの予備的活動になっている。
- \* スピーキングへの音読活動 - small.stepを踏んだ音読練習を行なうことによって本文表現を暗記段階まで高め, 1分間ト - ク中にそれらの表現を有効に使用できるように配慮。

#### (4) A L Tの関わり方

各学年年間20回程度(3年15回程度), 区による直接契約, 毎年継続する

A L Tが多い。英語科教科内，及び教科外活動，国際理解教育でも効果大。上記の活動後にはA L Tとも1分間程度は談笑ができるようになっていく。

## 2、本活動について

### (1) この活動の指導について(意図，目標)

友達と1分間以上会話を途切れさせず持続させることによって，方略的能力を育成し併せて，できるだけ同じ話題で話しを進行させるように仕向けることにより，談話の能力を養成する。その2つの能力を身に付けさせることが生徒にコミュニケーション能力を付けさせる近道であり，自らの意見を積極的に相手に発信できるようになることを意図するものである。

### (2) Allotment

過去の参考例のビデオ視聴	- - - - -	1時間
「困った時の表現集」解説と暗記、及び知りたい表現集アンケート	- -	4時間位
Pair Story-Tellingや Pair Questions & Answers を予備的に行なう	-	3時間位
1分間トク期	- - - - -	半年程度 10回程度
2分間トク期	- - - - -	以降半年程度 10回程度
3分間トク期	- - - - -	以降半年程度 10回程度

### (3) 評価の観点・方法

評価の観点 --- 方略的能力を駆使し、1分間(又は2、3分間)対話を持続できたか。  
指定された時間を stick to the topic を守り、相手の英文に正対して適切な応答をすることができたか。

方法 --- ALTによる観察法、ビデオやカセット録音による客観的評価法、筆記試験による英文チェック

### (4) 活動内容

- \* 授業の導入期、又は前時において「困った時表現」を暗記させる活動
- \* 教科書の音読指導 Listening -- Repeat Reading -- Read & Look up -- Buzz Reading -- Pair Reading -- Paced Reading -- Shadowing
- \* Pair Story-Telling -- 1分間の教科書内容の reproducing Good Listener Training
- \* 話す内容を選択、構成するためのBrainstorming Stage
- \* シート参照可のOne Minute Talk Stage.1
- \* シートを一切見ないで行なうCommunicative, One Minute Talk Stage.2
- \* 数ペアによるOne Minute Talkモデルdemonstration視聴，観察
- \* 自己評価表記入とModel Talkのフィードバック

### (5) A L Tの関わり方

Model Talk の評価、筆記試験での英文チェック、談話内容分析と生徒支援

## 3、本活動の成果・課題

- 成果 - - \*
- \* 生徒がAccuracyよりFluencyを重んじるようになってきた。
  - \* 音読指導がSpeakingの為のBridging Activityになってきた。
  - \* 稚拙であるが方略的能力を駆使し1分間会話が続くようになってきた
  - \* 友達とのTalkにMessageを含められるようになってきた。
- 課題 - -
- \* 話すトピックにより会話が続きにくいものが見られる。
  - \* Stick to the Topicが中学生段階ではなかなか難しい。

実施時期	: 平成11年度 第二学期
学年	: 3学年 3学級 1クラス33～34名
活動形態	: トーク(ディベート型トーク)
素材の出典	: 昨年度の「2分間トーク」を発展的に改良・改善
スクリプト	: 出だしの英文のみ指定 今回の例 There are two different opinions about the photographer. What do you think? (ニュークラウン Lesson 7)
タイトル	: What do you think about "A vulture and a child"?
条件	: * 一つの命題について自分の意見・主張を英語で述べる。 * トーク相手とのやりとりの中で相手を論破する。 * 3分間程度(一部2分間以上)対話をもたせる。

## Production Data

### 1. 指導計画

#### (1) ここまでの指導過程

2年次2学期までは稚拙な1分間トークを展開、3学期には2分間トークに移行。2分の壁を破った時点で時間無制限のトークが可能となる。3年次1学期の3分間トークでは、単純な事実報告型・情報交換型のトークから脱皮し、自己表現型に方向転換。3年次2学期には最終目標である一つの命題について英語で議論を展開するディベート型トーク・ディスカッション型トークを目指した。

第一学年時: (前半)定型対話練習 (後半)スキット練習  
 第二学年時: (前半)1分間トーク (後半)2分間トーク  
 第三学年時: (前半)3分間トーク (後半)主張・発信型トーク  
 大きな流れ: Prepared Speech から Impromptu Speechへの移行  
 事実報告型から自己主張型への移行

#### (2) 実施回数

2年次2学期より主にOne Lessonにつき1, 2回程度トークを実施、学期に10回程度、年間20-22回程度で実施している。ディベート的活動やALTとのデモンストレーション・トークを入れると回数は25回以上におよぶ。

#### (3) 関連する活動

##### \* 方略的能力育成の為の活動

生徒からのアンケートによって作成した「困った時の便利表現集」を暗記定着させる為の活動。このcompetenceを駆使し、会話中にcommunication breakdownを起こした際、なんとか切り抜けていくことができる。

##### \* 談話能力育成の為の活動

英語での対話を正常に進行させる為にはこのcompetenceは不可欠。この能力育成には、教科書内の呼応・相関表現や英文のpassage構成等を定着させる為の活動。

\* スピーキングへの音読活動

small stepを踏んだ音読練習を行なうことによって本文内容を暗記段階まで高め、直後に行なわれるトーク中にそれらの表現や英文内容を使用する。

(4) ALTの関わり方

生徒の英語運用能力育成には不可欠。このトークでは生徒の発音のみならず、談話分析を行なう。ディベート型トークでは生徒は最終的にALTと意見交換トークを行ない、論破することを目指している。

2. 本活動について

(1) ディベート型トークの目的・意図

これまでの私の実践である2分間トークやチャットでは、趣味や家族等の話題でそのトークの時間を費やす事実報告・情報交換をするのみであった。そこにはメッセージのやりとりはあるものの、coherenceとconsistenceにやや欠けるものも見られた。更に英語で顕著に見られる論理的構成・英語での思考過程を習得する為には、このディベート型トークが最適と考えた。これにより生徒達が積極的に自己の意見を主張できるようにし、英語で議論できるように意図するものである。

(2) Allotment (ディベート型トーク全時間配分 - - - - 7時間ワンセット)

- \* 予備トーク：ディベート型トークで使用する表現を練習する時間 - - - 1時間
- \* 調べ学習：ディベートを行なう為の準備、資料・文献調査 - - - - - 1時間
- \* 2分間トーク：生徒同士による主張トーク、隣ペア・前後ペア - - - - 1時間
- \* ディベート的活動：クラス全員が半分(support/against)に分かれ、1の命題について意見を交わす。1時間
- \* 対決トーク：グループ代表5人ずつによる対戦式の生徒バトルトーク - 1時間
- \* 意見交換トーク：生徒全員が交互に1人ずつALTと3分間バトル- 行ない、論破する - - - - - 2時間

(3) 評価の観点・方法

評価の観点 - - - 方略的能力及び談話能力を駆使し、3分間程度対話を持続できたか。その間をstick to the topicを守り、相手の質問に正対して、適切な応答をし、自己の意見・主張を言えたか。更に相手の意見に対し、上手く反論を返すことができたか。coherenceとconsistenceを守り、2- 3分程度対話を持続できたか。

方法 - - - ALTによる観察法、ビデオカセット録音による客観的評価法、筆記試験による英文チェック。

(4) 活動内容(今回のディベート型トークのやり方)

まずペア内でsupport/againstに分かれ、それを元に、クラス全体を2のグループへ大別する。その後、3分程度調べ学習を行なう。全員が自分の主張を1分以内で言い、その後お互いが反論を言い合う。途中、各代表5名により対決ディベート型トークを行なう。最後に再反論をする。グループ対抗のディベートが終了したあと、1-2時間をかけて、ALTの先生と生徒1人1人がディベート型トークを行なう。トークの内容は、命題に対する自分の意見・主張を言い、相手から質問や反論を受ける。それらに対し臨機応変に対応し、2-3分から5分程度英語でのやりとりを続ける。論理性、説得力、キーワードの使用頻度・表現内容等により、勝ち負けを判定する。

3. 本活動の成果・課題

成果 - - 方略的能力・談話能力を駆使し、数分間以上一つの話題で対話を続けるようになった。

教科書の音読指導がこのトークやSpeakingの為のBridging Activityになってきた。

ほとんどの生徒の英語運用能力が目覚ましく上達し、自分を意見や気持ち積極的に相手に伝えられるようになってきた。

課題 - - 主張・発信型トークでは、どんなに英語会話能力が高くとも、話題についての深い理解と洞察、及び論理的思考力が伴わないと難しい。

#### 4 , Student Talk の実際例 ( 談話分析資料 )

##### 資料 1 ( A L T ディベ - ト型ト - ク / A L T との意見交換ト - ク --- 2 分 2 0 秒程度 )

A L T

T , Y さん

Let's talk about the picture, Tamami.

How do you feel about the photo?

Do you support him? or are you against

Kevin Carter?

I support him, because he focused the world attention on the Sudan. This helped many other starving Sudanese. Umm~, Umm~, Without his photo, Sudan could not get help, and this photo will be a~, very~, great help to Sudan. I think this photo~, this photo is very important for us to know the war. How about you?

I do agree with you. But most of thinking about the child, I feel very sorry about the child.

How did you feel about about the

photo, when you look at it.

Very shocked.

Yes, very shocking. You were very shocking. If you were Kevin Carter, what would you do?

Umm~, taking a picture, after, save the child.

Yes. That's a good choice.

How about you?

I would do the same. I would take a picture, right away help the child.

Yes. I agree with your opinion. Umm,

( silent ~ laughing )

Umm~. He is a photographer, umm to do so is his duty.

Yes, also his duty is to help, I think. Do you agree?

I think so. But he helped many starving Sudanese.

Right. Yes ~ .

Nice talking with you.

Thank you for talking.

( このト - クでは, A L T は sympathetic listener になっている。 )

( 通常の speaking test と異なる点は 生徒が会話の主導権を取る箇所がある点 )

資料2 ( 生徒対決ディベート型トーク / 2分間バトルトーク - - - - 2分間 )

T, M君

T, K君

I am against him. I have two reasons about that.

When I saw the photo, I am- , I was surprised, and felt sad and shocking and so on. He took the picture without saving the child.

Second, NHK TV program said, "Why did you do nothing for her?" I think so, too. And human life is the most important of all. How about you?

I don't think so. Because, with his photo, UNICEF of today is playing an active part in the world. Which do you think better, to help one girl or to help many people in Sudan?

Yes. To help many people in Sudan is important. But he had to save the child before everything. Umm . If he didn't take the picture, he could speak to everyone. ( about that )

Umm ,umm . Which do you think better, for peace in the world, or one girl's life?

Yes. Yes,~ . It's the same level.

I don't think so. I wish peace~ , for peace in the world. How about you?

But she was dying. So I felt sad and shocking. Do you think that?

I don't think so.

Human life ~ . Do you think human life is the most important?

( 2分経過の為、対話途中で強制終了をしている。それをしないと時間無制限にバトルトークを展開してしまう。)

( このトーク中に使用されている教科書内容範囲外の構文・文法表現は、このトークの為に、特別指導をしている。 )